

議事録

【会議名称】令和4年度 第1回朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議

【日時】令和4年5月16日(月)

【会場】和光市総合福祉会館 第1会議室

【出席者】委員19名(欠席4名) 詳細別添資料

議題(1)令和4年度朝霞地区在宅医療・介護連携推進事業計画について

事務局より今年度の推進事業案について説明(参照:議題1 資料)

《アドバイザー(朝霞保健所)より提案》

■推進事業①入退院支援 HP等による好事例の発信に関して
埼玉県医療整備課の在宅医療推進担当にも好事例があると推測。
➡アドバイザーより情報収集&会議に情報提供して下さる。

■推進事業③急変時の対応としての、見取り研修における消防(救急)参加に関して
自身の県医療整備課救急医療担当、消防学校(消防職員のトレーニング施設)との
コネクションを活用していただきたい。

議題(2)入退院支援ルールの普及啓発について

■好事例の発信

医療整備課の事例と共に、より身近な例として朝霞地区の具体的事例を発信していく。

《ケアマネジャーより入退院支援ルール使用報告(2例)》

→好事例として発信していく方向。

■埼玉県の入退院支援ルール普及啓発活動内容

- ・研修会、代表者会議、その他関係団体での周知
- ・市町村・医師会・拠点のホームページでの告知等
- ・住民に対しての周知チラシの配布・説明

※事務局としては行政、地域包括、病院関係等にも周知していきたい意向なので、
会議・イベント等で説明会を設けられる機会があればお声がけいただきたい。

議題(3) ACP 普及啓発講師人材バンク登録制度について

事務局より令和3年度 朝霞地 ACP 普及啓発講師人材バンク登録制度事業について報告
(議題 3-1 資料)

令和4年度は、前年度からの医師に新たに3名が加わり、計7名を普及啓発講師として登録。
県からの補助金が出るのは前年度、今年度、来年度の3年間。それ以降は各市で ACP 普及
に取り組む方向。

- ・医師だけではなく、他職種からも普及啓発講師になればもっと広まるのではないか。
- ・学校などでの説明会等も行い、若い世代にも周知を図ってはどうか。

※多職種の中での共通認識が必要。今後の会議で意見交換し、方向性を共有していく。

《医師より》

ASP の捉え方は様々であり、「限られた命の人がどういう治療を受けるかしっかり確認する」というところが原点であったが、実際にはエンドステージに近い人だけでなく、自分たちの生き方死に方を考えてもらいたい。

自身に対しても家族に対しても、「亡くなる」というイメージを持たないのは不幸なことであり基礎知識として限られた命であることを知ってほしい。

《訪問看護師より取り組みの紹介》

- ・手作りで冊子を作成して使用。
- ・医師主導ではなく、関わる人全てで取り組むべきことである。
- ・終末期だけでなく新規導入の時点で訪問看護師から話をする、ということを今年度より開始。
- ・今までどう過ごしてきたのか・大事にしているものは何か・死に向かってはいるが、今どのように過ごしていきたいかを話し合う機会として捉えていきたい。

《朝霞市長寿はつらつ課より情報提供》

国立長寿医療研究センターの医師による ACP 人材育成の研修プログラムについて
→4 市と支援室で情報共有しながら、研修プログラムが活用できるのかどうか擦り合わせていきたい。

《朝霞保健所より提案》

コロナ感染者が生命保険会社に保険請求をする際、保健所の HP を見るので、ACPI についてのサイトのリンクを貼ることで、普及啓発を試みる。

議題(4)MCS の活用について

事務局より MCS 活用状況アンケートについて説明(議題 4 資料)

■今後の課題

- ・公的なツールとして周知されることが大切。現状個人情報を取り扱うという点において慎重になっており、公的機関の中での普及に至っていない。
- ・活用事例の勉強会実施。
- ・医師以外でも管理できるといい。
- ・共通の掲示板があるといい。

※MCS は患者を中心とした情報共有ツールとして必要不可欠であり、今後、更なる運用についてのワーキンググループを立ち上げて話し合いを進めていきたい。

その他

フィットテストの活用の推進

***** 次回日程 令和 4 年 9 月 26 日(月) 15:30～ 和光市総合福祉会館 *****

★朝霞地区医師会 地域包括ケア支援室のホームページが
独立して立ち上がりましたのでご確認ください

<http://areacare.asakamed.com/>